

Letter for Members

【コンテンツ】

●支部学術大会報告 107

支部学術大会報告

●九州支部学術大会

平成 27 年 8 月 23 日 (日), 九州歯科大学講堂 (福岡県北九州市) において, 九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野の細川隆司大会長のもと, 平成 27 年度公益社団法人日本補綴歯科学会九州支部総会・学術大会が開催されました。一般口演 5 題, ポスター発表 14 題, 専門医ケースプレゼンテーション 4 題が発表され, 活発な質疑応答が行われました。参加者は 249 名でした。

特別講演には東京慈恵会医科大学整形外科の斎藤充准教授をお招きし, 「骨の老化と劣化—ロコモティブシンドロームへの対応—」と題して, コラーゲンの老化からみた骨粗鬆症の新たな病態と抗加齢治療の実践についてわかりやすくお話しいただきました。また, シンポジウムでは「有病高齢者に対する歯科補綴」をテーマに, 九州歯科大学老年障害者歯科学分野の柿木

保明教授と日本大学歯学部附属病院歯科インプラント科科長の萩原芳幸先生から有病高齢者における義歯治療やインプラント治療の問題点についてご講演いただきました。

併催された生涯学習セミナーでは, 兵庫医科大学の岸本裕充教授と東京大学医学部附属病院の米永一理先生から高齢期・周術期のオーラルマネジメントや在宅医療における歯科医療の考え方についてお話しいただき, さらに市民フォーラムでは北九州市の後援のもと, 九州歯科大学顎口腔欠損再構築分野の榎原絵理先生に睡眠時無呼吸症候群のお話を一般の方を対象にいただきました。

非常に多くの先生方にご参加していただき, これからの超高齢社会における補綴治療を考える上で非常に有意義な研修会となりました。

(九歯大 正木千尋)



特別講演の様子



特別講演講師の斎藤先生 (左) と細川大会長 (右)



市民フォーラムの会場風景

●中国・四国支部学術大会

平成27年度公益社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部学術大会が、9月5日(土)、6日(日)の2日間にわたり、渡邊公人大会長のもと、くにびきメッセ(島根県松江市)において開催されました。島根県での開催は、平成8年度以来19年ぶりとなります。

特別講演2題は、松村英雄理事長に「歯科技工との連携強化による未来に向けた補綴臨床」、岡山大学の皆木省吾教授に「咀嚼能力の観点から摂食嚥下障害を考える」と題してご講演いただきました。併催された市民・県民フォーラム「いつまでも若々しいお口のために～口腔機能とリハビリテーション～」では、島根大学の吉川浩郎臨床教授と広島大学の津賀一弘教授をお招きし、一般の方に分かりやすくお話しいただきました。また、生涯学習公開セミナー「高齢者の食に

ついて考えよう」では、4名の講師(栢下 淳先生、鉄穴森陽子先生、田地 豪先生、河野文昭先生)に、咀嚼・嚥下などの口腔機能と栄養管理に関するご講演をいただきました。そして、一般口演は8題、ポスターは10題の発表があり、広範囲なテーマの演題で、活発な質疑応答が交わされました。

2日間を通して、学会員のみならず地元の臨床家の先生方にも参加いただきました。学術大会の参加者は200名を超え、市民・県民フォーラムにも100名近い方に来場していただき、盛会のうちに終わることができました。準備や運営にご尽力いただいた皆様に感謝の意を表し、報告とさせていただきます。なお、次年度は、九州支部との合同学術大会を開催する予定です。

(広島大 田地 豪, 二川浩樹)



口演会場の様子



特別講演講師の松村理事長と渡邊大会長

●東海支部学術大会

平成27年10月10日(土)と11日(日)の2日間にわたり、松本市中央公民館(Mウイング文化センター)(長野県松本市)において松本歯科大学歯科補綴学講座 倉澤郁文会長のもとで、平成27年度公益社団法人日本補綴歯科学会東海支部総会・学術大会が開催されました。一般口演11題が発表され活発な質

疑応答が行われました。

併催された市民フォーラム『お口から始める健康長寿』では最初の演者として倉澤郁文大会長が「歯福、口福がもたらす健康長寿」と題し、平均寿命全国1位である地元長野県が世界一平均寿命が長いと言えるが、健康寿命は男性で6位、女性においては17位であることを話し一般参加者に興味を持たせました。良



市民フォーラム(小笠原先生)



生涯学習公開セミナー(松香先生, 豊福先生, 倉澤大会長)

いお口の状態で嘔む事が、健康長寿に関連することをわかりやすく説明されました。それに引き続き、松本歯科大学障害者歯科学講座 小笠原 正先生が「“口から食べる”を維持する」と題し口演なさいました。動画を豊富に使用した口演は、飲み込むための力と機能を理解しやすいものでした。

生涯学習セミナーは『歯・咬合の感覚異常とどう向き合うか』というテーマで行われ、徳島大学大学院医

歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野の松香芳三先生から「咬合違和感に関して知っておくべきこと」と題し咬合違和感の原因等を説明していただきました。それに続けて、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯科心身医学分野 豊福 明先生から「咬合関連の不定愁訴をどう診るか?」と題し、全身的不定愁訴を症例を示しながら説明されました。

(松歯大 土屋総一郎)

●東北・北海道支部学術大会

平成 27 年 10 月 24 日 (土)、25 日 (日) の両日にわたり、岩手県盛岡市において、岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座の近藤尚知教授を大会長として平成 27 年度公益社団法人日本補綴歯科学会東北・北海道支部総会・学術大会が開催されました。第 41 回となる本学術大会は、メインテーマに「最先端技術が牽引する先進補綴歯科医療」を掲げて企画されました。

学術大会に先立って開催された専門医研修会では、座長を武部 純先生 (愛知学院大学教授)、講師を小林琢也先生 (岩手医科大学准教授) と大平千之先生 (岩手医科大学講師) に担当頂き、「補綴装置製作のためのデジタルワークフロー」と題して、現在のクラウドブリッジ、有床義歯におけるデジタルデンティストリーの発展について分かりやすく解説していただきました。また、学術大会では特別講演に、江草宏先生 (東北大学教授) をお招きし、「iPS 細胞技術が描く歯科医療の未来」と題し、iPS 細胞を用いた最先端研究についてご紹介いただきました。その後の一般口演では、それぞれに参加者間で活発な討論が行われ、東北・北海道支部の会員間の情報交換や親睦という意味で有意義な学術大会となりました。生涯学習セミナーにおいては、「CAD/CAM がつくる近未来補綴医療」をテーマに梅原一浩先生 (東北・北海道支部)、馬場一美先生 (昭和大学教授)、千葉豊和先生 (東北・北海道支部) より、歯科補綴分野における診察・診断から最終補綴装置製作に至るまでのデジタル技術の応用についての最新情報をお話いただきました。懇親会においては盛岡名物のわんこそば大会が催され、大学同士の対抗



特別講演の江草宏先生と近藤大会長



専門医研修会講師の先生方

戦ということでしたいへん盛り上がりました。

末筆となりますが、10 月とはいえ寒さの厳しい中、たくさんの先生方に御参加頂き、盛会裏に終了することができましたこと、この場をお借りして関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

(岩手医大 畠山 航)

● 関西支部学術大会

平成 27 年 11 月 7 日 (土), 8 日 (日) に, 兵庫医療大学神戸キャンパスにおいて, 大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座 田中昌博大会長のもと, 平成 27 年度関西支部総会ならびに学術大会が開催されました。一般口演 18 題, 専門医ケースプレゼンテーション 3 題が発表され, 活発な質疑応答が行われました。

特別講演では「欠損補綴の意義とエビデンス: 治す補綴から, 拡大しない補綴へ」をテーマに, 大阪大学大学院有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野 前田芳信教授に, 「欠損を放置することが栄養摂取や体平衡を介して全身にも影響を及ぼす可能性」, 「欠損をそれ以上拡大しないように補綴すること」, および「栄養摂取状態, 筋力などを補綴治療結果の評価に含めることでフレイルを抑制することの可能性」に関して, エビ

デンスに基づき御講演していただきました。

また生涯学習公開セミナーでは「金属アレルギーの臨床病態と歯科的対応法」をテーマに, 第一線で活躍されている徳島大学大学院顎機能咬合再建学分野 松香芳三教授, 徳島大学大学院口腔顎顔面補綴学分野 渡邊 恵先生, 高歯科医院 高 英和先生の 3 名の先生方に, 「金属アレルギーの発症機序, 診断方法, および歯科的対応法」に関して御講演していただきました。

参加者数は延べ 314 名となり, それぞれの講演について積極的に意見交換が行われ, 盛況の内に会を終えることができました。御尽力いただきました先生方に厚く御礼申し上げます。

(大歯大 向井憲夫)



前田芳信教授と田中支部長



生涯学習セミナー講師と田中支部長

